



「暮らしの中での“ふるさと”づくり」における各活動主体の役割

主 体	項目別課題								
	1 絆の形成				2 支え合いが持続するしくみ				
	(1)家族のつながりを見直す	(2)地域のつながりを考える			(1)誰もがそれぞれの形で地域に関わる			(2)活動が地域に根ざして続いていくしくみをつくる	
家族として暮らしやすい関係づくり	“向こう三軒両隣”からの重層的なつながり	いつでも個人や家族の支えとなりうる地域	地域の魅力の共有と伝承	課題解決への意識づけと協働	できる人が、できるときに、できることをするしくみ	企業、学校・大学等多様な主体の関わり	裾野の拡大	資金の確保	
地域団体	家族と一緒に体験する機会づくりの支援 例 地域運動会の開催	課題に応じた他団体との連携 例 民生委員と連携した要援護者リスト作成	多世代が交流し規範を学ぶ場づくり 例 地域拠点における通学合宿	祭りや食文化の継承、地域資源の発掘共有 例 むら芝居の保存	話し合いの場等の設定と周知 例 各校区まちづくり計画の住民による作成	地域の人々の持つコネクションや技能の活用 例 助成金ホッパ-企業勤務者の情報提供	地域内外の個人・団体との協働 例 大学教員をアドバイザーとした自治会運営	課題に応じたリーダーの登用 例 環境保全、子育て等テーマ別部会の設置	地域住民による生活支援サービスの提供 例 地区全世帯が出資運営する村営スタト
NPO	家庭での助け合いの意識づくり 例 男女共同参画セミナー	ボランティア等に関する普及啓発 例 ボランティア養成講座	悩みを持つ人等が集う場の提供 例 介護者の情報交換	外部の視点からの魅力発掘 例 空き古民家を再生した宿泊施設	地域への課題喚起 例 防災マップ・マニュアルづくりのホッパ-	支援する人とされる人のマッチング 例 ボランティア募集情報の提供	地域に合った活動提案と力付け提供 例 認知症高齢者等への支援体制の構築	外部人材と地域との橋わたし 例 移住者と地域住民をつなぐエリアマネージャー	地域内の助け合い循環システム構築 例 日常生活支援に利用できる地域通貨
企業	多様な働き方ができる職場づくり 例 出勤時間を自由に設定できる制度	社員のボランティア活動の推進 例 ボランティア休暇制度	居住者同士が支えあう住宅等の提供 例 シェアハウス、グループホーム	地域情報を交換する媒体の提供 例 社内報への地域情報の掲載	地域との情報交換にむとづく活動 例 店舗ごとの取組(景観美化、児童見守)	空き店舗等の地域への開放 例 厚生施設の地域への無償貸与	地域と協働したCSR活動 例 農村集落での作業支援・農産物買支え	地域資源を生かしたビジネスの展開 例 商農連携による商品開発と販売	人口減少に対応したリ-サルビジネス 例 介護付き旅行の企画運営
学校	家族参加の学校行事 例 保護者参加の自然調査	地域活動への参加者募集等の協力 例 行事の周知チラシ配布	不登校児等の多様な学びの場の提供 例 フリ-スクールと商店街が協力した餅つき大会	地域の魅力を学習する機会の提供 例 ふるさと副読本による学習	企画段階からの地域づくり活動への参加 例 地域イベント実行委員会での提案と活動	地域団体等と連携した体験学習 例 校区内での体験型環境学習	学校運営への地域住民の受け入れ 例 学習支援等学校支援ボランティア	教育課程における地域貢献活動 例 高校生ふるさと貢献活動	地域資源を活用した商品の開発 例 地元農産物を使ったリ-サル食材
大学	個人・家族・地域社会に関する研究 例 家族の捉え方の提案	周辺地域の多世代との関わり 例 大学生が県営住宅に入居する制度	地域住民向け講座の実施 例 まちの寺子屋師範塾	地域資源発掘のアドバイザー 例 大学生によるお宝マップ作成	地域課題解決に向けた調査研究 例 サライト施設からの団地再生提案	学生を担い手とした地域課題解決 例 コミュニティカフェの内装・メニュー提案	学内ボランティア組織の結成と活動 例 災害被災地への救援活動	大学の知的財産の活用 例 簡便な工法による地域拠点整備提案	新たな地域資源の開発 例 地域ブランドを冠した日本酒

県民一人ひとり (人生の各ステージでさまざまな関わりをつくる)

<若年層> 地域の歴史や文化、自然の学習 異世代、他学年とのコミュニケーション 地域の魅力の自覚と地域への参画意識の醸成

<中高年層> 家族と関わる時間を継続的に確保 地域での人間関係づくり 地域の抱える課題の認識と行動

<高齢者層> 経験や知識を地域に提供

ふるさとづくりのポイント

(1) “ふるさと”意識を持つ

“ふるさと”への想い
生命のつながりを実感し他者への思いやりを育む
家族がお互いに認め合い、関係を結び直す
ともにつくってきた地域の価値を認識して伝え、一度離れた人や新しく来る人、短期の居住者とも触れ合い新しく創造する

自立した個人同士の関係づくり
家族や近隣関係を基盤に信頼と共生の心を育む
一人ひとりが役割を持ち自立し、他者との関係を築く

(2) “ふるさと”のために活動する

顔の見える生活圏での取組
日常生活の中、地域での人間関係をつくり活動する
住民が情報をやりとりし、力を合わせる

地域の一員としての自覚と行動
地域の課題を住民自身の視点から提起する
目標や課題を自らのものとして共有する

多様な主体の能力の発揮
課題に応じた地域のリーダーを核としてともに取組む
地域を超えた人・モノ・情報の交流を活用する

ふるさとづくりの推進方策

(1) 考え方
青少年期の体験を通じた学びの推進
お互いに“話し合い”できる力の養成
誰もが参加できる開放的なネットワークの形成

(2) 県への施策提案
少年期の“ふるさと”(自然、文化等)体験プログラム実施
青年期の“ふるさと”貢献活動促進
地域課題について学習する機会の提供
地域の合意形成のしくみづくり
多様な主体の協働による地域経営の支援
“ふるさと”で活躍する人の紹介